

## 2019年12月末 NHK チョイス！歯科最新情報特集

掲題の件、2019年12月末に下記2回に分かれてNHKの番組にて歯科特集報道されましたので、その概要をレポートさせていただきます。報道された「チョイス」も患者さんの頭に入っている可能性があることを考えた上、日常の診療・説明も必要となってきます。ご参考ください。

- ①12月21日(土) 20:00- チョイス@病気になったとき 選「歯科最新情報(1) 歯を失ったとき」  
 ②12月28日(土) 20:00- チョイス@病気になったとき 選「歯科最新情報(2) 歯を守るには」  
 ①12月21日(土) 20:00- チョイス@病気になったとき 選「歯科最新情報(1) 歯を失ったとき」

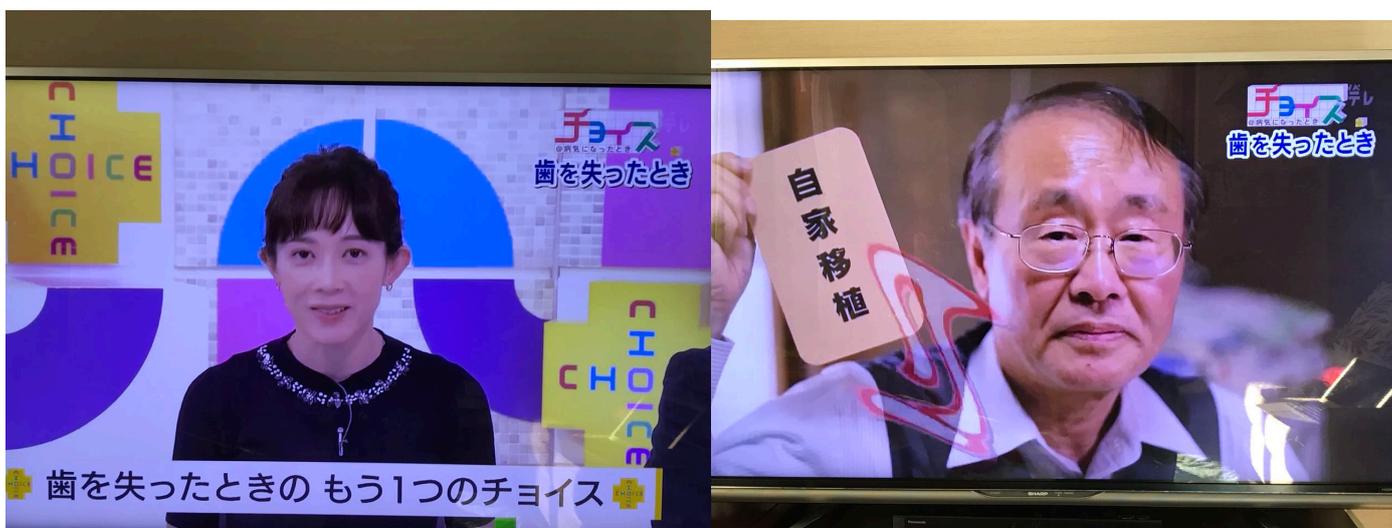


冒頭、歯を失う主な要因は歯周病 37.1%、虫歯 29.2%、破折 17.8%という説明があった後、「歯を失った場合はどんなチョイスがあるか？」という話題になりました。放置しておいたら歯列が乱れるなど良くない点を説明した上、基本的にある3つの選択肢「部分入れ歯、ブリッジ、インプラント」のそれぞれのメリット・デメリット、保険治療や自費治療での概算費用を説明。それぞれのチョイスを行なった方がどうしてそのチョイスを選んだかという取材とともに、東京医科歯科大学歯学部の水口俊介教授と丸川恵理子准教授により説明され、わかりやすい内容でした。



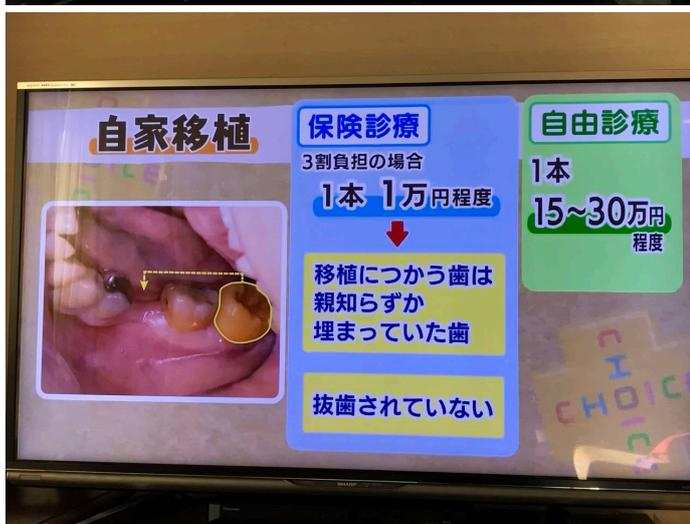
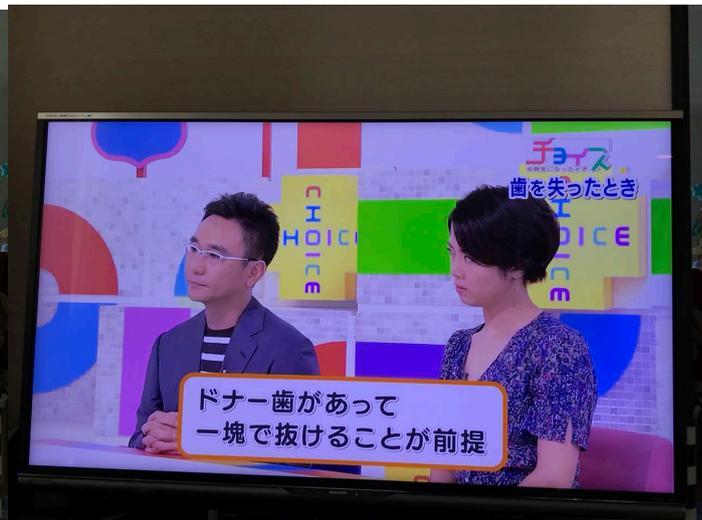
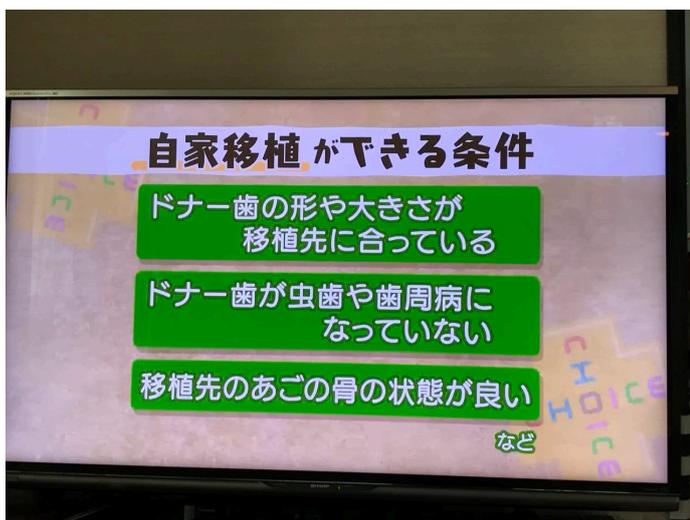
また、インプラント治療では、「より」その後のケアが大切になるため、「十分なケアができない人にはオススメできない」、「近くの神経・血管を傷つけるリスクがあるため、CT 画像で場所を確認してから手術」という説明があった上、「今後失われる歯を予測して、『口全体の治療』を計画してくれる歯科医がおすすめ」だという説明がなされました。また、「ケア」についても歯ブラシだけでなく、歯間ブラシ・タフトブラシなどが必要だが、そのサイズ選びなどは担当医に相談してほしいとの説明もなされました。

抜けた本数、残っている歯、何歳の時に抜けたか、経済的状況、忙しさなどを加味し、どんなチョイスがあって患者さんにはどんな選択肢がおすすめか、選択したいかをお伝えしていく必要があります。



また、基本的な3選択肢「部分入れ歯、ブリッジ、インプラント」以外に、もう一つのチョイスがあるといってクローズアップされたのが「自家移植」です。「部分入れ歯、ブリッジ、インプラント」ではそれぞれ1患者の取材でその意見を聞いていましたが、「自家移植」では2患者からその意見を聞き、「自分にとって最適な選択肢だった」「インプラント比べて噛み心地が違う」といった意見が取材されました。

歯根膜ごと移植するため、インプラントと比べクッション性があり、自分の歯で噛んでいる感覚がある上に、食べたものの硬さや、痛みなど感覚も得ることができるため、歯も守りやすい。移植をすると、歯の歯髄は死んでしまうため根管治療が必要な点は留意が必要だが、手術後2ヶ月くらいで自分の移植した歯で食事もでき、移植歯の5年生存率が9割以上、10年生存率が8割以上。条件が合えば保険治療にて1本1万円程度で治療できるという説明がなされました。



「歯の自家移植というチョイスもある」と最後にもまとめて説明されていましたが、同チョイスも頭に入れて来院される患者さんがいる可能性も考えての診療・説明が必要となってきますのでご参考ください。

②12月28日(土) 20:00- チョイス@病気になったとき 選「歯科最新情報 (2) 歯を守るには」

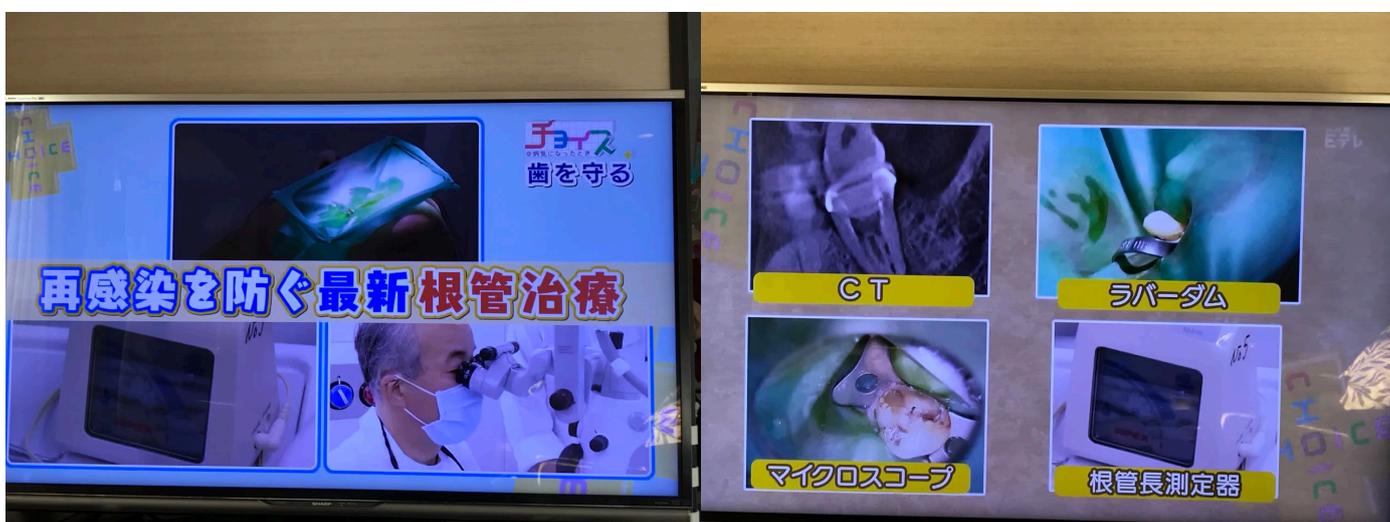


年末の翌週には「歯を守るには」の特集放送もなされました。そこで、最初にクローズアップされたのは「歯周病」です。

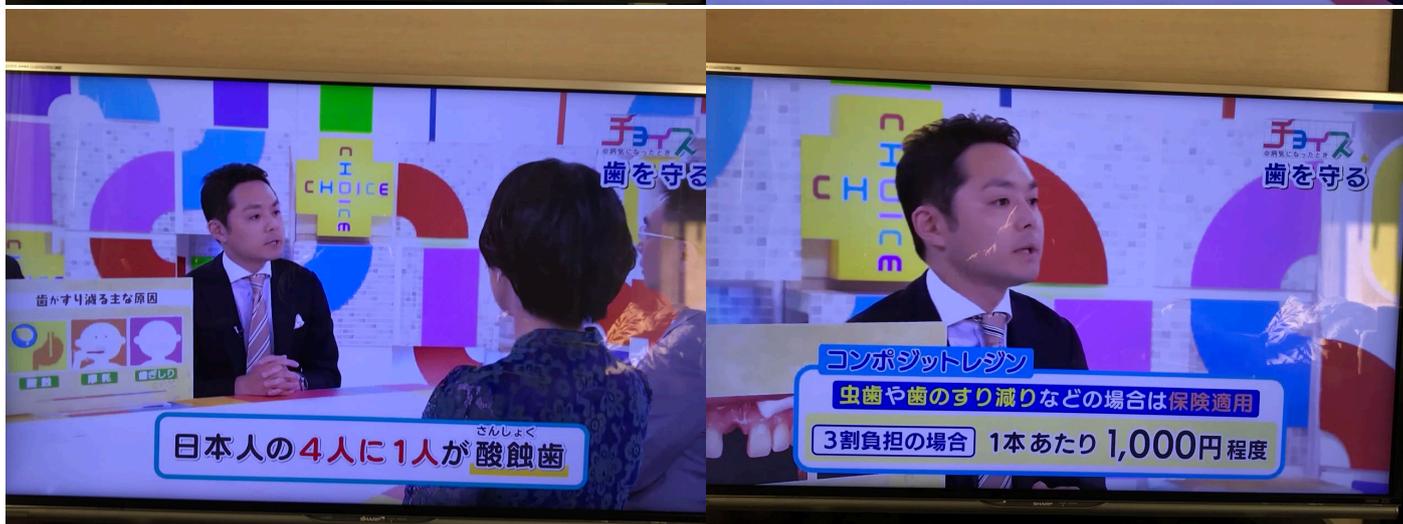


自分は歯磨きをちゃんとしているし大丈夫と思っていた鈴木さん (71 歳、仮名) は、ある日、歯が抜けおちてきた。あまり気にせずにはいたが、その後3週間のうちに4本も抜けてしまい歯科を受診。抜けた歯も戻せるものと楽観していたが、歯周病が進行しているため、「歯を全部抜いて総入れ歯にします」と言われて途方にくれ、大病院を受診したところ、「歯周組織再生療法」をいう選択肢を提示され、それを選択した。術後6-7年経つが、自分の歯で生活できている。歯科は「痛くなったらいけばいい」と思っていたが、「今思えば歯は健康なうちにしっかり診てもらったほうが」よかったというコメントもありました。

また、歯肉炎と歯周炎の違いや、その段階で必要なセルフケアとプロケアについての説明が東京医科歯科大学の保坂啓一助教よりなされました。



また、最新根管治療では、こんなものが使用され重要だと紹介されていたのは、ラバーダム、根管長測定器、マイクロスコープ、CTなどが紹介されていました。X線だけでは1方向からの撮影しかわからないが、CTならば3Dで撮影した上、様々な方向から見られるため根管の形状を把握した上で治療がしやすい点など、クローズアップして取り上げられていました。



最後に「失いかけた歯がよみがえる!?!」とクローズアップされたのは最近増えてきている『Tooth Wear』です。上記のようにすり減る歯。なぜ歯がすり減るのか?という要因として「酸蝕、摩耗、歯ぎしり・食いしばり」があるが、特に酸蝕は、日本人の4人に1人が酸蝕歯といわれ、対応が必要。酸性のものを飲食したあと、水でゆすぐなど予防が必要だが、すり減った歯も「コンポジットレジン」により保険治療が可能との紹介がありました。

また、同番組はまとめスペシャルとして、2月8日(土) 20:00~20:45に2放送分のまとめ版放送がされる予定ですので、そちらもご覧ください。参考になる情報があれば幸いです。

人々の健康と笑顔に寄与することを目指して! 株式会社シラネ